

久留米市美術館 2022年度展覧会のご案内

久留米市美術館は、搬出入口等整備工事のため、2022年10月28日(金)まで休館いたします。

ペリかんくらぶ 記念館で楽しむ特別な9か月

石橋正二郎記念館

2022年1月22日(土)―10月23日(日)

美術館は休館中も石橋正二郎記念館を舞台に活動を続けます。正二郎の歩みと人となりの紹介や、石橋財団コレクションの絵画展示にくわえ、ワークショップや講座などさまざまなイベントを行います。それらを総称して「ペリかんくらぶ」と名付けました。石橋文化センター開園時からずっと園内を見守ってきた「ペリカンプール」(現在は「ペリカン噴水」)にちなんだ名称です。休館中ならではの楽しい時間を記念館でお過ごしください。



【絵画展示について】

絵画展示コーナーでは、石橋コレクションの中から、正二郎とかかわりのある作品4点を選んで紹介します。9か月間のプログラムは下記のとおりです。

- その1 岡田三郎助と辻永(つじ・ひさし) 1月22日(土)～4月17日(日)
- その2 黒田清輝と藤島武二 4月23日(土)～7月18日(月・祝)
- その3 松田諦晶と古賀春江 7月23日(土)～10月23日(日)



ペリカン噴水(1977年撮影)

生誕140年 ふたつの旅 青木繁×坂本繁二郎

2階 展示室

2022年10月29日(土)―2023年1月22日(日)

同じ年に久留米に生まれ、共に洋画家の道を歩んだ青木繁と坂本繁二郎の生誕140年を記念して開催する初の二人展。28年の生涯を駆け抜けた青木、87年の生涯を絵ひとすじに生きた坂本。画家としてめざす方向も性格も、生きた時代の長さも全く異なる二人の画業と生涯を、ときに交差させながら紹介します。



青木繁《自画像》1903年
石橋財団アーティゾン美術館



坂本繁二郎《自画像鏡像》1929年
石橋財団アーティゾン美術館

リアル(写実)のゆくえ 現代の作家たち 生きること、写すこと

2階 展示室

2023年2月11日(土)―4月2日(日)

松本喜三郎らの生人形、高橋由一の油彩画を導入部として、現代の絵画と彫刻における写実表現を検証するものです。西洋の文脈のみではとらえきれない日本の「写実」がいかなるものなのか、また現代を生きる作家にどのように受けつがれているのか、その手がかりを探ります。



中谷ミチコ《空が動く》2017年



深堀隆介《桜升 命名 淡紅》2017年

※都合により会期等変更になる場合がありますので予めご了承ください。

※入場料など詳細は久留米市美術館公式ホームページにて随時お知らせします。